

あらかわ 区議会だより

No. 268

令和3年11月14日
(2021年)



荒川区議会ホームページ

令和3年度定例会・9月会議号



あらかわ街なか美術館
～ 区内全域が彫刻作品の美術館 ～



「夢」 制作者：北村 西望 氏（荒川公園）



← 作品紹介二次元バーコード

長崎の平和祈念像や国会議事堂内の板垣退助翁像で知られる著名な彫刻家である北村西望氏の作品です。北村西望氏は除幕式の挨拶で、「この作品は、硬質アルミ製で大変丈夫にできています。荒川区民の皆さんにとって、これから50年、100年と区の発展のシンボルとして、愛されることを望んでいます。」と述べられていました。

おもな内容

2ページ 議会活動

9月会議の概要

3ページ 区政のここをきく

9ページ 議会日程を知るには

委員会活動の報告

13ページ 議案の審議結果

14ページ 令和2年度決算審査

監査委員報告

15ページ 令和2年度決算の概要

主要施策の成果説明

16ページ 主な総括質疑

表紙写真募集

17ページ 決算に対する討論

20ページ 議案ピックアップ

議会活動

令和3年7月9日～令和3年10月13日

7月20日

- 総務企画委員会
- 福祉・区民生活委員会

7月21日

- 文教・子育て支援委員会
- 建設環境委員会

7月27日

- 震災・災害対策調査特別委員会

7月28日

- 財政援助団体調査特別委員会
(現地視察・現地開会)

7月29日

- 観光・文化推進調査特別委員会
(区内視察)

7月30日

- 健康・危機管理対策調査特別委員会

8月4日

- 健康・危機管理対策調査特別委員会

8月30日

- 議会運営委員会

8月31日

- 総務企画委員会
- 福祉・区民生活委員会

9月1日

- 文教・子育て支援委員会
- 建設環境委員会

9月9日

- 議会運営委員会

9月10日

- 本会議

9月13日

- 本会議

9月14日

- 総務企画委員会
- 福祉・区民生活委員会

9月15日

- 文教・子育て支援委員会
- 建設環境委員会

9月16日

- 本会議

9月22・27・28・30日

10月1・4・7日

- 決算に関する特別委員会

10月12日

- 議会運営委員会

10月13日

- 本会議

9月10日～10月13日までの期間(太字)に
令和3年度の9月会議が開かれました。



9月会議の概要

～令和2年度一般会計決算ほか3特別会計決算を認定～

令和3年度荒川区議会定例会・9月会議は、9月10日から10月13日までの34日間の会議期間で開かれました。

9月会議の1日目と2日目にかけて、7人の議員から区政全般にわたり一般質問が行われました。
(要旨は3～8ページに掲載しています)

9月会議では、議案26件が提出されました。
このうち令和2年度決算4件は、決算に関する特別委員会を設置して審査を行いました。
(議案の審議結果は13ページに掲載しています)



▲9月会議での区長挨拶の様子

表紙：「あらかわ街なか美術館」事業

区内全域を「あらかわ街なか美術館」に見立て、区内に点在する彫刻作品に二次元バーコードを整備し、ホームページと連動して作品・作者を紹介する等、芸術文化による魅力あるまちづくりを進めます。

区政のここをきく

9月10日、13日の本会議にて、一般質問が行われました

一般質問要旨



新型コロナウイルス感染症対策と区制施行100周年について

明戸真弓美(自民党)



新型コロナウイルス感染症対策について

問 新型コロナウイルス感染症も、早2年近くになろうとしている。荒川区でも若い世代を中心に感染が拡大しているという状況の中、できうる限りの方策で区民の命を守って欲しいと考えている。感染急拡大が続くこの危機を乗り越えるために、人員体制も含めて、区としてどのように対応していくのか、区の見解を問う。

答 自宅療養者の急増に対応するため、入院病床を20床まで確保するとともに、毎日24時間対応できる救急相談や往診体制等を整備した。一方、ワクチン接種については、10月末時点で、約8割の区民の方が2回の接種を終了できるものと見込んでいる。さらに、様々な媒体を活用し、区民の皆様への情報発信に努めている。

問 自宅療養者に対し、必要な医療を適切に提供するためには、医師会や医療機関との協力・連携体制の構築が必要である。また、食事の配送だけでなく、生活必需品に困っている自宅療養者の方にも、寄り添った対応をすべきである。一方、保健所職員の負担、緊張感が大きくなる中、職員の状態にも目を向け、急増する業務に耐えられる区の体制づくりが必要と考えるが、区の見解を問う。

答 自宅療養者に対しては、新たに健康観察の専門チームを立ち上げ、都や区の医師会・薬剤師会等と連携して、処方・訪問等必要な措置がとれる体制の構築に取り組んでいる。物資については、食料品に加えて日用品もお届けするなど、きめ細やかな対応に努めていく。保健所の体制については、職員的大幅な増員と各部からの応援など、全庁を挙げて対応している。

問 3回目のワクチン接種を含め、継続的な接種を進めていくためには、これまでの課題を踏まえ、現場が混乱しないよう接種体制を整備する必要がある。今から将来を見据えて、医師会との連携をさらに強化していくべきと考えるが、見解を問う。

答 3回目の接種について、その動向は不明な状況であるが、国に対し、接種計画の早い段階での提示や、柔軟なルールの設定等について要望するとともに、医師会をはじめ関係機関との連携をさらに強化し、体制の整備に努めていく。

区制施行100周年にむけて

問 令和14年に区制100周年を迎えるにあたり、区の歴史を振り返ることができるものとして、記録した写真や映像など、区民も巻き込んで情報収集を行ってはどうか。また、荒川ふるさと文化館や広報など各所管と連携して区の歴史、文化を区民に広め、100周年に向けた機運醸成を図ることについて、区の見解を問う。



◀ふるさと文化館(昭和の復元家屋)の様子

答 区において記録し、保存してきた写真や映像を活用し、区の歴史を振り返ることは重要であり、区民のご協力も得ながら、これからの時代にあった「荒川区の歴史」を残す方法を検討していく。また、展示のリニューアルなどを含めた荒川ふるさと文化館としての機能を充実させることで、区制施行100周年に向けた機運醸成を図っていく。

問 持続可能な行財政運営を推進していくための財政フレーム改定の進捗状況と今後の財政需要に対応するための財源確保について、区の見解を問う。また、行政サービスのデジタル化推進の動きを踏まえ、区民に寄り添った、より良い窓口サービス

について、区の見解を問う。

答 財政フレームは直近の状況等を踏まえた改定作業を鋭意行っているところである。今後の大規模な財政需要への対応については、基金や起債を活用するなど、安定的な財源の確保に努めていく。また、窓口サービスについては、デジタル技術と「人による支援」により向上を図っていく。

問 荒川区でもコロナ前に行っていた、小中学生や父親による幼稚園や保育園での一日保育体験などの交流事業は、人の孤立を防ぐことや、小中学生が幼児という存在を再認識することで気づきを得られること、また、幼児たちにとっても多くのことを気づかせてくれる貴重な体験である。区においての状況や認識について、見解を問う。

答 保育園と小学校の交流活動については、荒川区就学前教育プログラムにおいて重要な取り組みと位置づけ、進めてきた。幼児にとって、小学生との交流は、未来への期待を持つことができ、多くの気づきのある貴重な体験となっている。今後も、コロナ禍の状況を見つつ、学校・教育委員会等関係機関と連携し、交流活動を推進していく。

その他の質問項目

○コロナ禍で影響を受けた分野への支援について



コロナ感染爆発のもとでの対策の強化と若者支援について

斉藤 邦子(共産党)



コロナ感染爆発のもとでの対策の強化について

問 保健所が逼迫するなか、派遣や委託、他部署からの応援だけではなく、コロナ対策の要となる保健所職員の増員を行うことが必要と考えるが、区の見解を問う。

答 これまで、44名の増員を行ったほか、任期付職員を採用するなど対応に取り組んでいる。今後も状況を踏まえ、執行体制の確保に努める。

問 大規模なPCR検査を行い、無症状感染者の早期発見・保護の体制を都に求めるとともに、内閣

府のモニタリング検査の枠組みを拡大し、希望する事業所等で定期検査が可能になるよう要請することが必要と考えるが、区の見解を問う。

答 モニタリング検査は、区でも働き掛けを行い、都立大での実施を実現した。無料PCR検査キットの配付、モニタリングは国や都の総合的判断の下で実施しているため、国や都の動向を踏まえ必要に応じて要請等を行っていく。

問 感染拡大を抑えるため、都に対して、臨時医療施設を設置し、病床と医療従事者確保に最大限の力を尽くすことを求める必要があると考えるが、区の見解を問う。

答 病床の確保は、既に都へ申し入れ、臨時医療施設の設置は、東京都医師会から国や都への要請の動きもあり、今後のその動向を注視していく。

若者支援について

問 若者たちが希望を失い、生活学業の困難に陥っている今、若者を孤立化させないよう、生の声を集め、適切な支援につなげられるよう、若者専門の部署を立ち上げることが必要と考えるが、区の見解を問う。

答 区では、心の健康相談など、困難を抱える若者の支援に取り組み、また、虐待等で親元から離れた子どもたちが、児童養護施設の退所後、地域で生活できるよう、支援も検討している。

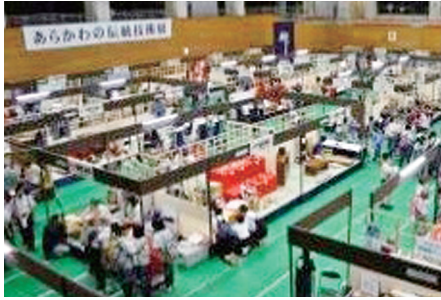
問 コロナ禍での生活悪化も進む中、若者の実態把握の第一歩ともなり、暮らし応援にもなる、区ができる支援策として、18歳までの医療費無料化を実現することを望むが、区の見解を問う。

答 都制度の対象外の子どもの医療費は、区が単独で助成している。助成対象の18歳までの拡大は、財政負担がさらに増大するので、区単独で実施するのは難しいと考える。都の動向を注視していく。

問 技術を持つ区内企業の魅力を伝え、若者と中小企業を結んでいくことや、区の特徴の一つである伝統工芸技術の後継者をサポートする「荒川の匠育成支援事業」の魅力をアップし、定着を図ることについて、区の見解を問う。

答 技術を持つ企業の若者雇用対策では、動画見学会など新たな手法を展開している。また、匠育成事業では弟子入り希望者への支援と、作品展の開

催など若手職人をPRし、区内定着を図っている。



職人の祭典「あらかわの伝統技術展」の様子

その他の質問項目

- 子ども・学校の緊急コロナ対策について
- 2022年度予算の荒川区独自の対策について
- 西日暮里再開発の保育園・高齢者施設について



パートナーシップ制度導入の推進と映画による荒川遊園リニューアルオープン記念事業の充実について

菊地 秀信(公明党)



パートナーシップ制度導入の推進について

問 パートナーシップ制度の理解促進と機運醸成を推進するためにも、当事者団体との共催による写真展など、発展的に視点を変えたイベントを開催していくべきと考えるが、区の見解を問う。

答 性自認や性的指向等を含め、多様な生き方に対する理解促進を図るため、様々な機会や媒体を通じ、広く普及啓発を図り、地域における理解の輪を着実に広げる取り組みを検討、実施していく。



7月に開催した男女共同参画等に関するパネル展

問 性的マイノリティに配慮し、法令上や事務処理上不要と考えられる性別記載欄は削除するのが当然である。まずは調査を行い、不要な性別欄を削除すべきと考えるが、区の見解を問う。

答 策定中の「性自認・性的指向に関する対応ガイ

ドライン」においても、性別欄の削除や記載方法の見直しを検討している。各種手続きにおいて当事者に寄り添った適切な対応に取り組んでいく。

映画による荒川遊園リニューアルオープン記念事業の充実について

問 開園100周年記念事業として、荒川区にゆかりのある映画監督の松村克弥氏に、人情味あふれる荒川区らしい映画を作成してもらい、荒川遊園リニューアルオープン記念事業の充実を図ってはどうか、見解を問う。

答 映画製作は、荒川区の魅力を発信でき、また芸術文化に触れるきっかけになるものと考えられる。約30年ぶりにリニューアルする荒川遊園が、オープン後も持続的に親しみ、楽しんでいただけるよう、魅力を伝える情報発信を検討していく。

問 100年後の荒川区民に、荒川区の今を鮮明な映像として伝えるためにも、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で未執行のイベント予算や、国の文化振興における補助金などを活用してはどうか、区の見解を問う。

答 自粛を余儀なくされている文化芸術活動に対し、国はコロナ禍を乗り越えるための財政支援を行っている。区は、庁内横断的な連携の中で財源確保も含め荒川遊園リニューアルの機運を高める取り組みを協議し、芸術文化の振興を図っていく。

その他の質問項目

- 新型コロナウイルス感染拡大防止対策について
- 休校リスクを軽減するための準備徹底について



スケートボード練習場の整備と小中学生の防災ヘルメット導入の必要性の認識について

竹内 明浩
(立憲・ゆい・無所属の会)



都市型スポーツの1つであるスケートボードの練習場の整備について

問 オリンピックを契機に、スケートボード愛好者が増えているのに対し、まだまだ専用施設の絶対数が足りていない。スケートパーク設置には様々

な課題があることも理解しているが、公道や公園で乗っている危険な状況も放置できない。スケートボード愛好者のための専用施設の整備を強く要望するが、区の見解を問う。

答 区内にスケートボード練習場を整備することは、区全体のスポーツ振興につながるものと考えている。しかし、一定の広さのある場所の確保、施設の安全性の担保など、実現に向けては多くの課題があると認識している。こうした課題を踏まえ、関係部署と連携しながら、区内におけるスケートボード練習場整備の可能性について検討する。



◀スケートパークのイメージ

小中学生の防災ヘルメット導入の必要性の認識について

問 区も、災害対応について強い問題意識を持ち、様々な取り組みを行っているが、小中学生の防災ヘルメット導入については、未だ実現に至っていない。落下物から頭部を保護するにはヘルメットが一番有効である。ヘルメットの必要性について区の見解を問う。また、導入できない課題と、どのようなきっかけがあれば導入されるのか問う。

答 学校現場において、災害時に子どもたちの身体・生命を守るため、これまでも校舎の耐震補強や避難訓練などの取り組みを進めてきた。防災ヘルメットについては、頭部の損傷を防ぐ目的から避難所等でボランティアとして活動する中学校防災部に配布している。施設の安全性や危険を回避するための避難方法等を総合的に勘案して、ヘルメットの配布について引き続き検討していく。

その他の質問項目

○公契約条例制定について



新型コロナウイルス感染症対応の 自宅療養者への対策と生活保護の在り方について

河内 ひとみ
(あらかわ元気クラブ)



新型コロナウイルス感染症対応の自宅療養患者への対策について

問 自宅療養者の重症化を防ぐためにも、区が独自に臨時医療施設を早期に設置すべきと考えるが、区の見解を問う。

答 臨時医療施設の設置は、国や都が行うものであり、都に対し病床確保を申し入れている。



◀新型コロナウイルス感染症
自宅療養者向けガイドブック

問 受け入れ先が見つげにくい妊婦や小児感染者について、緊急医療施設整備等、受け入れ体制の整備が望まれるが、区の見解を問う。

答 公立病院や区独自で病床を確保している医療機関において受け入れており、今後も継続していく。

問 濃厚接触者ではなくても、希望する誰もができるPCR検査の無料実施への取り組みが必要と考えるが、区の見解を問う。

答 濃厚接触者への行政検査に加え、施設等での感染者発生時には範囲を拡大して実施している。

生活保護の在り方について

問 扶養照会を行うことにより様々な弊害が生じているが、その撤廃について、区の見解を問う。

答 扶養照会の実施は、保護申請者一人ひとりに対し個々の事情等を考慮し、弾力的に運用している。

問 女性やLGBTの方たちがデリケートな話のできる雰囲気具备了た専用相談室の設置等、配慮が必要と考えるが、区の見解を問う。

答 全庁的に空きスペースがなく、相談者の状況に応じた工夫により対応しているが、引き続きどのような対応ができるか検討していく。

問 区民の意識が変わるような、生活保障の観点から考えたしおりの改善を求めるが、見解を問う。

答 より分かりやすい保護のしおりとするため、早期改定に向けた準備を進めている。

その他の質問項目

○東京女子医科大学東医療センター移転に伴う今後の対応について



本格的な行政のDX推進と区の魅力向上について

鎌田 理光(自民党)



本格的な行政のDX推進について

問 行政のDXの本来の在り方は、業務を徹底的に見直し、システムの最適化・標準化をした上で、地域課題の解決や新たなデジタルサービスを区民に提供していくことにある。それには、デジタルサービスの創出、提供、普及を生業とする民間人材の活用が不可欠であり、こうした人材を登用し「デジタル化推進課」を創設してDXを推進していくべきと考えるが、区の見解を問う。

答 国が定めた「自治体DX推進計画」では、自治体の情報システムの標準化・共通化等6つの重点目標が定められた。それに対応するには、ICTの知見を持ち、自治体現場の実務に即して技術の導入の判断や助言ができるデジタル人材の活用が不可欠と考え、全庁のコントロールタワーである情報システム課の体制強化の中で、提案の趣旨を踏まえ、そうした人材の活用等検討していく。

問 区の情報発信について、まだまだ改善の余地が多いと感じる。資料をPDF化してリンクを張る方式も利点はあるが、問題点も多い。このスマホ時代に、より分かりやすい形で情報発信し、どのような形であれば区民に行き届くのかを考える視点が大切だと考える。より効率的に情報発信のスキルアップを図るため、民間企業と積極的に交流すべきと考えるが、区の見解を問う。

答 区が発信する情報は、多岐に渡っており、情報

量も多いことから、区ホームページではほとんどの端末で閲覧可能なPDFファイルを活用している。また、民間の専門家による研修等を実施し、情報発信について職員スキルの強化にも努めてきた。今後も、区民の利便性が向上するよう改善を図っていく中、民間のノウハウも活用し迅速かつ的確に情報を発信していく。

問 区と区民をつなぐ情報発信のためには、SNSの強みを生かした双方向の情報のやり取りを検討すべきである。既に実施している他自治体の取り組みを参考に、区民と行政が直接つながる機会を作り、自分が住んでいる街に興味関心を持ってもらえるきっかけづくりになる取り組みを行うべきと考えるが、区の見解を問う。

答 区では「区民の声」のメールに画像添付機能を加え、区民の皆様の意見を区政に反映させてきた。区民の皆様からの情報提供は有効な手段と考えるが、真偽不明確な情報等も寄せられる可能性がある中で、適切に情報の確認をしていく必要がある等の課題もあることから、まずは簡易なアンケート等への活用の可能性を検討していく。

区の魅力向上について

問 生まれ変わる「新・荒川遊園」では、夜間開園に加え、平日昼間帯の利用促進を図ることが成功のカギと考える。平日も含め常に多くの利用があり、一定のブランドとして認識され、従業員もサービスレベルの維持・向上に意欲を持って取り組めるよう、アニメなどとコラボレーションしたイベントを、期間を設定して実施してはどうか。荒川遊園ならではの集客策を展開し、魅力を高め、平日も多くの人で賑わう施設を作る取り組みを要望するが、区の見解を問う。



◀ リニューアルしてひと回り大きくなった観覧車

答 平日の日中の利用促進については、利用者増加のための重要な課題であり、ターゲットを見極め、

しっかりと引き付ける新たな魅力の創出が重要と考える。アニメなどとのコラボイベントについては、荒川遊園の新たな利用者層に向けた強いアピール効果が期待できると考えられるので、他施設の事例も含めて調査・研究していく。

問 eスポーツは障がい者支援、雇用や高齢者へのやりがいづくり等の側面でも、脚光を浴びることが増えている。区内でも、年齢や時間、場所などの制約を超えた新たな地域コミュニケーションの創出といった理念も持ち併せ、イベント等を開催している団体がある。そうした団体と連携を取り、産業や観光だけでなく教育や高齢者、障がい者の福祉等、様々な側面でeスポーツを活用し、性別や年代を越えた新たな魅力を区に付与していくべきと考えるが、区の見解を問う。

答 eスポーツのイベント等を区内で開催することによって、地域の活性化や集客による産業・観光振興を図ることに加えて、障がいの有無や年齢に関わらず、幅広い層の方々が楽しむことが出来るものと認識しており、引き続きeスポーツの推進に向けて具体的な検討を進めていく。

その他の質問項目

- 子ども達の成長を見守る環境整備について
- コロナ禍、コロナ後の事業者支援について



新型コロナウイルス感染拡大のもとでの高齢者介護・福祉施策と気候変動への対応について

横山 幸次(共産党)



新型コロナウイルス感染拡大のもとでの高齢者介護、福祉施策などについて

問 一人暮らし高齢者世帯の悉皆調査をし、必要な施策へつなげることと、公的ヘルパーを配置した直営基幹型地域包括支援センター設置を求める。

答 地域ネットワークを活用した状況把握やサービス等の情報提供を行う。また、地域包括センターの基幹的機能は高齢者福祉課が担っていく。

問 高齢者の生活圏域に空き家、銭湯、商店街の空

き店舗など地域資源を使った居場所、コミュニティをつくる構想の進捗状況について問う。

答 通いの場を運営する団体や生活援助を行う団体の活動費の補助を開始した。商店街の空き店舗を活用して活動している補助対象団体もある。

問 ケアラー支援条例の制定を求めつつ、現状では、養護者自身が人間らしい健康で文化的な生活が送れるよう、家族介護、ケアラーへの支援を検討し実施するべきと考えるが、区の見解を問う。

答 家族介護者の視点も含めた介護計画の立案のほか、断わらない相談支援や相談しやすい窓口、伴走型・訪問型の支援の仕組みづくりに取り組み、支援が必要な方々を地域全体で支えていく。

気候変動への対応について

問 IPCC第6次報告の内容と、温室効果ガス排出ゼロに向け、大規模な省エネと再生可能エネルギーへの大転換の必要性について認識を問う。

答 気候変動問題に対して強い危機感を持ちながら、地域特性を踏まえた温暖化防止策を推進し、ゼロカーボンシティに向け取り組んでいく。

問 区の事業の実施過程を含めたCO₂など温室効果ガス排出量とその削減の方策、削減目標への寄与率を明らかにするよう求める。

答 個々の事務事業に係る温室効果ガスと削減比をつぶさに数値化するのは困難だが、可能な限り数値化、見える化を図り削減に取り組んでいく。



◀ 温室効果ガスの削減に繋がるシェアサイクル

問 再開発における独自の環境アセスの実施とゼロエミッションビルへの転換を含め温室効果ガス削減目標に見合った計画への見直しを求める。

答 温室効果ガスの削減対策を行う予定であり、新しい省エネ技術や手法を可能な限り導入することでモデルケースとなるよう準備組合に働きかけ、持続可能なまちづくりを目指していく。

本会議・委員会等の 日程を知るには

● ポスター掲示

6月、9月、11月、2月には、
区役所掲示板、各区営掲示板に
オレンジ色のポスターを掲示し、
お知らせします



● あらかわ区議会ホームページ 議会日程を順次更新しています



二次元バーコード



あらかわ区議会
Arakawa City Assembly

議会日程(9・10月)

日付	曜日	時間	議会日程
1	水	午前10時	文教・子育て支援委員会 建設環境委員会
2	木		
3	金		
4	土		
5	日		
6	月		

委員会活動の報告

議会運営委員会

中島 義夫 委員長

8月30日

◆ 9月会議について

- ① 9月会議・初日の開会日について
- ② 提出予定案件について
- ③ 9月会議の会議期間について
- ④ 一般質問等の締切日について
- ⑤ 提出議案説明のための委員会開会について
- ⑥ 9月会議の会議期間に係る日程について
- ⑦ 決算に関する特別委員会の設置について

9月9日

◆ 9月会議について

- ① 追加議案の提出について
 - ② 9月会議の会議期間について
 - ③ 議事日程について
 - ④ 一般質問について
 - ⑤ 9月10日の本会議の議事の取り扱い及び順序について
 - ⑥ 9月13日の本会議の議事の取り扱い及び順序について
- 等

10月12日

◆ 9月会議の最終日について

- ① 陳情書の受理について
- ② 議事日程について
- ③ 本会議の議事の取り扱い及び順序について
- ④ 9月会議の終了について

◆ 今後の議会日程について



◀ 9月会議の様子

常任委員会

総務企画委員会

斉藤 邦子 委員長

7月20日

◆所管事務事業説明

○令和2年度荒川区包括外部監査の指摘事項及びその改善策について

◆陳情について

8月31日

◆9月会議提出予定案件について

- ①令和3年度荒川区一般会計補正予算(第4回)
- ②令和3年度荒川区国民健康保険事業特別会計補正予算(第1回)
- ③令和2年度荒川区一般会計歳入歳出決算について 等

◆所管事務事業説明

○指定管理施設に係る令和2年度の実績評価結果について

9月14日

◆付託された議案について

- ①議案第21号
令和3年度荒川区一般会計補正予算(第4回)
- ②議案第23号
令和3年度荒川区介護保険事業特別会計補正予算(第1回) 等

◆所管事務事業説明

- ①令和3年度行政評価(令和2年度決算版)及びサンセットの結果について
- ②財政フレームの改定について
- ③「令和2年度荒川区包括年次財務報告書」について



◀新型コロナウイルス対策経費を含む補正予算を緊急に議決

文教・子育て支援委員会

並木 一元 委員長

7月21日

◆所管事務事業説明

- ①今後の学級数増加への対応方針案について
- ②令和4年度区立小中学校入学生を対象とする学校選択制度の実施について
- ③区立ひぐらし保育園の入園募集停止について

9月1日

◆9月会議提出予定案件について

○荒川区立南千住七丁目保育園の指定管理者の指定について

◆所管事務事業説明

- ①令和2年度文化施設の実績評価結果について
- ②令和2年度生涯学習施設の実績評価結果について
- ③令和2年度荒川総合スポーツセンターの実績評価結果について
- ④荒川区立南千住七丁目保育園の指定管理者候補者の選定結果について
- ⑤令和2年度保育施設の実績評価結果について
- ⑥南千住四丁目学童クラブの廃止及び今後の学童クラブ利用申請の取り扱いについて

9月15日

◆付託された議案について

○議案第24号
荒川区立南千住七丁目保育園の指定管理者の指定について

◆委員会付託事項

○新たに付託された陳情について



◀リニューアル後の荒川総合スポーツセンター

福祉・区民生活委員会

森本 達夫 委員長

7月20日

◆所管事務事業説明

- 西日暮里在宅高齢者通所サービスセンターの廃止について

8月31日

◆9月会議提出予定案件について

- ①東尾久本町通りふれあい館（他4館）の指定管理者の指定について
- ②荒川区立特別養護老人ホームグリーンハイム荒川の指定管理者の指定について
- ③令和3年度荒川区一般会計補正予算(第4回)について【福祉・区民生活委員会関係】 等

◆所管事務事業説明

- ①令和2年度ふれあい館（13館）の実績評価結果について
- ②令和2年度高齢者福祉施設の実績評価結果について 等

9月14日

◆付託された議案について

- ①議案第16号
荒川区旅館業法施行条例の一部を改正する条例
- ②議案第28号
峡田ふれあい館の指定管理者の指定について
- ③議案第30号
荒川区立特別養護老人ホームサンハイム荒川の指定管理者の指定について
- ④議案第35号
荒川区立荒川福祉作業所の指定管理者の指定について 等



◀東尾久本町通りふれあい館
(完成予想図)

建設環境委員会

北城 貞治 委員長

7月21日

◆所管事務事業説明

- ①荒川区環境基本条例の一部改正に伴うパブリックコメントの実施について
- ②児童遊園のあり方について
- ③公衆トイレのあり方について

9月1日

◆9月会議提出予定案件について

- ①荒川区環境基本条例の一部改正について
- ②荒川区公衆トイレに関する条例の一部改正について 等

◆所管事務事業説明

- ①荒川区環境基本条例の一部改正に伴うパブリックコメントの実施結果について
- ②「南千住一・荒川一丁目地区」地区計画における敷地面積の最低限度の変更について
- ③令和2年度荒川区民住宅等の実績評価結果について
- ④児童遊園及び公衆トイレの法的位置付けの見直し並びに宮前児童遊園及び同児童遊園内公衆トイレの廃止について
- ⑤令和2年度自転車駐車場施設の実績評価結果について

9月15日

◆付託された議案について

- ①議案第18号
荒川区環境基本条例の一部を改正する条例
- ②議案第19号
荒川区立公園条例の一部を改正する条例 等



◀区内の児童遊園

特別委員会

震災・災害対策調査特別委員会

小林 行男 委員長

7月27日

◆調査研究事項

- 災害時におけるホテルの客室等の利用に関する協定の締結について



◀区内ホテルとの災害時の協定締結

観光・文化推進調査特別委員会

志村 博司 委員長

7月29日

◆調査研究事項

- ①町屋四丁目実揚遺跡について
- ②あらかわ街なか美術館の実施について
(区内視察：ふるさと文化館等)



◀ふるさと文化館視察の様子(女関前のトリックアート)

健康・危機管理対策調査特別委員会

斎藤 泰紀 委員長

7月30日

◆委員会活動方針について

◆調査研究事項

- ①新型コロナウイルス感染症の状況について
- ②新型コロナウイルスワクチンの接種について

8月4日

◆調査研究事項

- 東京女子医科大学東医療センター移転後の病院の整備及び運営に関する基本協定書(原案)について



◀新型コロナウイルスワクチン接種の様子

財政援助団体調査特別委員会

松田 智子 委員長

7月28日

◆調査研究事項

- 荒川区シルバー人材センターについて
(現地視察・現地開会)



◀シルバー人材センターにて委員会を開会する様子

議案の審議結果

令和3年度定例会・9月会議

○賛成 ×反対 太字は討議のあったことを示す

議案番号・議案名	会派名・結果 (数字は会派人数)		自 民 党	公 明 党	共 産 党	立 憲 ・ ゆ い ・ 無 所 属	次 世 代 あ ら か わ	日 本 創 新 党	自 由 民 主 の 会	あ ら か わ 元 気 フ ラ ブ	維 新 ・ 子 育 て の 会	結 果	
	11	6											
区長提出議案(26件)													
第16号	荒川区旅館業法施行条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第17号	荒川区公衆浴場法施行条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第18号	荒川区環境基本条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第19号	荒川区立公園条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第20号	荒川区公衆トイレに関する条例の一部を改正する条例		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第21号	令和3年度荒川区一般会計補正予算(第4回)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第22号	令和3年度荒川区国民健康保険事業特別会計補正予算(第1回)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第23号	令和3年度荒川区介護保険事業特別会計補正予算(第1回)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第24号	荒川区立南千住7丁目保育園の指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第25号	東尾久本町通りふれあい館の指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第26号	ひぐらしふれあい館の指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第27号	汐入ふれあい館の指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第28号	峡田ふれあい館の指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第29号	東日暮里ふれあい館の指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第30号	荒川区立特別養護老人ホームサンハイム荒川の指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第31号	荒川区立特別養護老人ホームグリーンハイム荒川の指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第32号	荒川区立南千住中部在宅高齢者通所サービスセンターの指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第33号	荒川区立グリーンハイム荒川在宅高齢者通所サービスセンターの指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第34号	荒川区立荒川生活実習所の指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第35号	荒川区立荒川福祉作業所の指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第36号	荒川区立特別養護老人ホーム花の木ハイム荒川の指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
第37号	荒川区立花の木ハイム荒川在宅高齢者通所サービスセンターの指定管理者の指定について		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
認定 第1号	令和2年度荒川区一般会計歳入歳出決算		○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	認定
認定 第2号	令和2年度荒川区国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算		○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	認定
認定 第3号	令和2年度荒川区後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算		○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	認定
認定 第4号	令和2年度荒川区介護保険事業特別会計歳入歳出決算		○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	認定

決算に関する特別委員会で 令和2年度決算を認定

令和2年度一般会計歳入歳出決算ほか3特別会計歳入歳出決算については、監査委員を除く全議員で構成される決算に関する特別委員会（委員長＝明戸真弓美、副委員長＝小林行男）を設置しました。9月22日から審査を行い、いずれも特別委員会において認定することに決定しました。



▲決算に関する特別委員会の進行の様子

委員会での審査経過

9月22日

- ・一般会計歳入歳出決算
- 監査委員意見（茂木弘監査委員）等、書面配付
- 総括質疑（9会派）
※主な質問項目は別掲
- 歳出審査（議会費・総務費）

9月27日

- 歳出審査（総務費）

9月28日

- 歳出審査（総務費）

9月30日

- 歳出審査（民生費）
- 10月1日
- 歳出審査（民生費・衛生費）
- 10月4日
- 歳出審査（環境清掃費・産業経済費・土木費）

10月7日

- 歳出審査（土木費・教育費・公債費・諸支出金・予備費）
- 歳入審査（一括審査）

- 採決 採決の結果
認定することに決定
- ・国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算
- ・後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算
- ・介護保険事業特別会計歳入歳出決算
- 審査
- 採決 採決の結果
認定することに決定

監査委員による決算審査の報告

令和2年度決算審査は、関係諸帳簿及び証拠書類との照合を行うとともに、関係職員から説明を聴取するなどの方法により実施しました。その結果、決算計数に誤りはなく、各会計の決算内容、予算の執行状況等も適正と認められ、その旨の審査意見を区長あてに提出いたしました。

また、財政健全化法による「令和2年度決算に基づく健全化判断比率」についても、審査の結果、適正である旨の意見を、区長あてに提出しましたことを、あわせて報告いたします。

予算の執行にあたり、新型コロナウイルス感染症の影響等に伴う特別区財政調整交付金の大幅な減など歳入面での減収が見込まれる一方で、歳出面では今後も厳しい財政環境が続くという認識の

下、効果的・効率的な財政運営に努めたものと考えられる。審査の結果、実質収支は黒字であり、基金残高は前年度決算額を上回るなど、極めて健全な財政運営に努めていると評価できます。

しかしながら、令和2年度は顕著に現れなかった新型コロナウイルス感染症による財政運営への悪影響が今後は出現することも懸念されます。

こうした点を踏まえ、事業の休止や徹底的な行政改革の推進等歳出の抑制に努めるとともに、特別区民税の更なる収納率の向上など歳入の確保に努め、歳入、歳出の両面から健全な財政運営に向けた取り組みを確実に実行するよう求め、報告とさせていただきます。

令和2年度 決算の概要

		予算現額	歳入(収入率)	歳出(執行率)	歳入歳出 差引残高
一般会計		1,370億2,829万1,000円	1,248億4,786万3,611円 (91.1%)	1,225億993万7,123円 (89.4%)	23億3,792万6,488円
特別会計	国民健康保険 事業	239億9,618万8,000円	224億4,436万8,612円 (93.5%)	220億2,832万5,265円 (91.8%)	4億1,604万3,347円
	後期高齢者 療養	50億8,900万円	47億6,711万2,719円 (93.7%)	47億3,636万8,461円 (93.1%)	3,074万4,258円
	介護保険 事業	189億9,176万1,000円	181億1,554万332円 (95.4%)	171億7,337万2,779円 (90.4%)	9億4,216万7,553円

令和2年度

荒川区主要施策の成果説明

(一部抜粋・要旨)

生涯健康都市

○基幹相談支援センターの開設

区内の障がい者やその家族が抱える多岐にわたる困りごとについて、関係機関と解決を図るための中心的な役割を担うとともに、障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らす仕組みづくりを推進するため開設した。

子育て教育都市

○タブレットPCを活用した学校教育の充実

新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校措置やGIGAスクール構想の推進によるオンライン学習のための環境整備を図るため、タブレット端末完全1人1台体制を構築した。

産業革新都市

○日暮里地域活性化施設の整備

日暮里区民事務所の建替えに伴い、区の産業及び観光資源である日暮里繊維街の特性を活かし、地域住民や来訪者の活動・交流の促進、区内における創業支援や産業振興を目的とした施設ふらっとにっぽりを開設した。

環境先進都市

○低炭素地域づくりの推進

脱炭素社会を実現するため、これまでの気候変動の緩和策に加え、適応策を含めた「地域温暖化

対策実行計画」を策定した。また、シェアサイクル事業を本格実施へ移行するなど、地域における環境負担の低減を図った。

文化創造都市

○俳句文化の振興

「荒川区俳句のまち宣言」を踏まえ、俳句文化の裾野を広げるため、区民が気軽に参加できる事業を実施した。さらに、宣言5周年を記念した、サンパール荒川指定管理者自主事業「夏井いつき句会ライブ in 俳句のまちあらかわ」を実施した。

安全安心都市

○特殊詐欺対策

増加する還付金詐欺やオレオレ詐欺等の被害を防ぐために、不審電話情報の共有化と発生状況を踏まえた集中パトロール、無人ATMへの職員等配置による警備、電話自動通話録音機の設置促進など、地域が一体となった取り組みを展開した。

新型コロナウイルス感染症対策事業

○地域医療体制及びワクチン接種体制等の整備

新型コロナウイルス感染症相談窓口を開設するとともに、区民の円滑な受診、療養体制を整えるため、区内医療機関及び医療従事者への支援や検査体制の拡充を図った。また、国の動向を踏まえ、ワクチン接種体制等の迅速な整備を行った。

主な総括質疑

※ 二次元バーコードから荒川区議会HPの動画に移行します

自民党
土橋 圭子 委員



- ICT教育におけるタブレットの活用の成果と課題について
- プラスチックのリサイクルについて

自民党
斎藤 泰紀 委員



- 新型コロナウイルスワクチンについて
- 東京女子医科大学東医療センターの移転について
- 新病院について

共産党
相馬 ゆうこ 委員



- 令和2年度決算の総括について
- 新型コロナ対策（検査・ワクチン）について
- 保険料の減免の拡大について
- 登校できない子どもに対するオンライン支援について
- 高齢者デイサービス事業者・利用者支援について

公明党
森本 達夫 委員



- 高齢者のみまもり対策について
- 障がい者支援政策について

立憲・ゆい・無所属の会
清水 啓史 委員



- 旅館・ホテル業の許可について

次世代あらかわ
宮本 舜馬 委員



- パートナーシップ制度について

日本創新党
小坂 英二 委員



- 環境確保条例の厳格な適用と火災保険特約加入の義務化について

自由民主の会
藤澤 志光 委員



- 新型コロナウイルスについて

あらかわ元気クラブ
河内 ひとみ 委員



- PCR検査の継続実施について
- 在宅療養の障がい者、高齢者の支援について
- 新型コロナ病床の確保について

維新・子育ての会
山田 晴美 委員



- 業務のスリム化について



▲決算に関する特別委員会の委員会室の様子

新年号（令和4年1月1日発行予定）の表紙写真を募集します

【テーマ】荒川区内で撮影した **荒川区** または **お正月** をイメージする **未発表の横向き写真**

【締切】令和3年12月1日（水）午後5時まで

【方法】応募者の氏名・住所（区外在住で区内に在勤または在学の方は、勤務先名か学校名も記載）・電話番号・撮影年月日・撮影場所・写真のタイトルを記入し、写真のJPEGデータを添付の上、**Eメールで送ってください。**

メールアドレス：kugikai@city.arakawa.tokyo.jp

令和2年度決算をこう評価する

10月13日の本会議において、令和2年度一般会計決算について各会派から討論が行われました。その要旨をお知らせします。

今後も予断を許さない財政環境にあることを踏まえた持続可能な行財政運営の徹底を強く要望し、賛成
自 民 党



この度の決算審査では、西川区長の第5期目のスタートにあたり、その成果を確認した。区政全般にわたり区民サービスの向上に向けた着実な前進が図られており、改めて西川区政の取り組みを高く評価する。

まず、財政状況については、最大の自主財源である特別区税は過去最大を更新している。各種財政指標はいずれも適正な水準にあり、健全な財政運営が維持されている。コロナ禍にあっても安定的な財政運営を継続できたのは、我が党がかねてから主張し続けてきた、サンセットをはじめとする行財政改革に熱意をもって取り組んできた結果であると評価する。また、新型コロナウイルス感染症対策について、多くの事業を実施したことにも感謝する。

本決算には、未来社会を担う子どもたちが健やかに育つための取り組みや、「読書のまち あらかわ」の推進による文化環境を整える取り組みなど、区の将来を見据えた施策がしっかりと盛り込まれている。我が党では、主に以下の点について質疑を行った。

福祉・健康の分野については、東京女子医科大学東医療センターの移転と新病院の整備、災害時における医療救護所の運営及び拠点病院との連携、重層的な生活支援体制、自宅療養者への支援の強化等に期待する。

子育て・教育の分野については、ICT教育におけるタブレット端末活用の成果と課題、児童虐待判定へのAI導入、特別支援学級設置校の廊下の段差の抜本的な解消を求める。

産業・観光の分野については、荒川遊園の戦略的な広報や近隣飲食店への周知、今後の製造業等

経営力向上支援補助金の活用を求める。

環境の分野では、プラスチックのリサイクル・分別回収の推進を求める。

都市計画の分野については、JR東北本線荒川橋梁の堤防工事の進捗を確認し対応を求める。

今後も新型コロナウイルス感染症への更なる対応をはじめ、公共施設の更新など多大な財政需要が見込まれており、今後の財政環境は予断を許さない状況にある。それらを踏まえた、計画的で持続可能な行財政運営の徹底を強く要望し、本決算の認定に賛成の討論とする。



▲読書を愛するまち
あらかわ宣言のロゴ

感染症対策をはじめ、区民の生命と財産を守るための施策に全力で取り組むことを求め、賛成

公 明 党



令和2年度予算は、これまでの実績や社会情勢の変化等を踏まえ、全ての区民が幸福を実感できる施策に取り組むという強い決意に基づき、「区民の安心と元気を育む予算」として編成され、執行されてきたものと理解している。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症が世界的に猛威を振るい始め、我が党は区民の声、現場の声を聞き取り、13回にわたる「緊急要望書」を区長に提出した。区は、その要望を盛り込んだ補正予算を5度にわたり編成するなど、素早い対応をしたことを高く評価する。

令和2年度決算を総括すると、一般会計の歳出

総額は前年度比大幅な増となっており、財政健全化法に基づく健全化判断比率において、いずれの指標の数値も良好な水準を維持している。

この度の決算審査では、高齢者の見守り対策としての見守り電球やICTサポートデスク等の設置、生理の貧困問題の対策強化、大切な家族を亡くされた方のグリーフケアについて資格取得などの職員の資質向上、児童虐待防止対策として職員の対応力やスキル向上のためのAI活用の推進、廃プラスチック回収についての各種の取り組みなどの意見・要望等について、前向きな答弁がなされたと理解している。我が党が一貫して主張してきた「感染症対策」「子育て・教育対策」「社会的孤立防止対策」「防災・減災対策」そして「ポストコロナ時代の経済と生活の再生」については、早急な区の決断と実行を強く要望し、本決算の認定に賛成の討論とする。



▲防災アプリの普及と活用

区のコロナ対策が不十分。検査や保健所体制の強化、くらし応援など積極的予算編成を求め、反対

共産党



コロナ感染拡大のもと、住民の暮らしと事業者にとって深刻な事態となった令和2年度決算について、以下の理由から認定に反対する。

まず第一に、この年度最大の課題・コロナ感染症対策の大部分は、国や都の補助金や交付金が財源となっている。我が党提案のコロナ融資金利ゼロや就学援助対象拡大などの予算組み替えも、区の独自財源でできた内容である。来年度予算に向け、財政出動を含めた積極的財政運営を求める。

第二に、区内で発生した新型コロナウイルスの集団

感染も、初動の遅れが感染拡大につながった。第6波が起きる前に、これまでの経過を総括し、大規模なPCR検査を実施すべきである。また、保健所等ケア職場への支援も強化すべきである。

第三に、西日暮里駅前再開発の区のホールは断念したが、巨額の税金投入に変更はない。三河島駅北地区再開発と合わせて1万トンの二酸化炭素排出が想定されるなど、地球温暖化に逆行する大規模再開発は見直しすべきである。

最後に、教室の換気対策としてサーキュレーター、CO₂濃度測定器の設置、新生児特別給付金の支給対象外となった方への独自給付、住まいは人権の立場で、高齢者・障害者への借り上げ住宅・家賃助成制度・障害者グループホームの設置の具体化、コロナ禍で苦しむ区内業者に区独自給付金支給の検討などにおいて、対応の遅れが明らかになった。シルバー人材センターにも影響を及ぼすインボイス制度の廃止と消費税5%への引き下げを国に働きかけることを求め、反対の討論とする。



▲シルバー人材センターで活動される方々

非常時だからこそ、より効率的で柔軟な事業展開を期待し、賛成

立憲・ゆい・無所属の会



令和2年度はコロナ禍初期の時点での予算編成の在り方及び議論の内容を検証することで、今後のより効果的かつ迅速な予算の執行、施策の遂行へとつなげるという意味で、重要な決算年度であった。新型コロナウイルス感染症の影響で、計5回の補正予算の編成を行い、規模も計約300億円にのぼる異例の年になった。

決算に関する特別委員会では、新型コロナウイルス感染

症対応だけでなく、非常時における市内のネット環境の整備、文化振興に係るこれまでの取り組みの検証と、俳句をはじめとした様々な文化・環境資源の活用による街づくり、自転車活用推進計画について、自転車のまち荒川区の宣言及びそれに準ずる主要施策としての位置づけ、スケートパークの整備促進、防災士のさらなる活躍の為の施策の推奨、及び防災アプリのQRコード記載ののぼりの活用、産官学連携促進事業による地域経済の活性化、行政システムの効率化、そして旅館業における厳正な仕組みづくり等の質疑を行った。

予算執行には、非常時だからこそ、区民に寄り添った事業展開を期待し、賛成の討論とする。



募集中の
フォト俳句コンテスト

新型コロナワクチン接種の進捗
など区の取り組みを評価し、賛成

次世代あらかわ



次世代あらかわ会派の緊急要望書や次年度の予算編成に対する予算要望書の提出に対し、要望が施策に反映される事も多くあった。新型コロナワクチン接種の進捗をはじめ区の取り組みについて、高く評価している。

決算に関する特別委員会においては、災害に備えた委員会等のオンライン開催、高齢者や若者を狙った特殊詐欺対策、学校や公共施設における生理用ナプキンの設置、ワクチンに対する正しい情報の広報、HPVワクチンのキャッチアップ助成、9価ワクチンの公費接種化と公費接種期限が迫る方への周知、いじめAIの導入、待機児童対策としての西尾久保育園の園舎の活用、学童でのおやつ代金の徴収方法の整理、公園内での喫煙問題等

について議論を深め、前向きな答弁もいただいた。コロナ禍だからこそ、オンラインやSNSを十分活用し、区民が今なにを求めているかを知り、行政に役立てるよう希望し、賛成の討論とする。



HPVワクチンの
普及啓発ポスター

コロナ対策の強化と生活困窮者
への負担軽減、清掃職員の補充
を求め、反対

あらかわ元気クラブ



新型コロナウイルス感染症の対応について、保健所体制、医療体制の双方に強化の必要を感じる。PCR検査体制ではいち早いPCRセンターの設置は評価するところであるが、区独自の予算をつけ、希望者全員にいつでもPCR検査ができる体制が必要だと考える。

また、失業などによる生活困窮者にさらなる負担を伴うことになる保険料等に軽減のない予算に反対する。生活保護相談には、寄り添った対応や申請に対する啓発活動を求める。

最後に、清掃事業では雇上会社への委託化が進み、正規職員の採用がされていない。今後の震災や環境問題への取り組み、個別収集時の安否確認など、重要な役割を考え検証し、委託ではない正規職員の増員を求め、反対討論とする。



PCR検査の様子

議案ピックアップ

●令和3年度荒川区補正予算について

【一般会計(第4回)】

43億5,876万円 増額 (補正後1,120億6,229万2千円)

- ① 自宅療養者に対する療養支援 2億3,447万9千円 <衛生費>
 自宅療養者への健康観察を専門で行う看護師チームを新たに配置するとともに、療養者の状態に応じた訪問看護ステーションによる対応や、区医師会との連携・協力のもと、自宅に居たまま必要な薬を処方できる体制を整えるなど、きめ細かい療養支援を行う。
- ② 自宅療養者救急相談事業 1億2,707万7千円 <衛生費>
 自宅療養者の容態急変に対応するための救急相談について、平日・休日いずれも24時間対応に充実を図るとともに、新たにオンライン診療にも対応するなど、相談体制を拡充の上、実施する。
- ③ 自宅療養者に対する物資の支援 923万9千円 <衛生費>
 自宅療養者が必要とする食料等について、療養者のニーズに合わせ、これまで以上にきめ細かく、かつ、迅速に自宅に届けることができるよう、配送体制を充実し実施する。
- ④ 病床確保協力金支給事業 1億5,688万円 <衛生費>
 新型コロナウイルス感染症の感染拡大の現状を踏まえ、区独自に確保している入院患者用の病床について、一人でも多くの区民が入院できるよう、20床に増床の上、実施する。
- ⑤ 新型コロナウイルス相談事業 5,349万9千円 <衛生費>
 感染が疑われる方や濃厚接触者等の相談に的確に対応できるよう、現行の相談体制を拡充の上、実施する。
- ⑥ 新型コロナウイルス感染症PCR検査事業 3,135万円 <衛生費>
 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴うPCR検査件数の増加により、経費に不足が見込まれるため補正する。
- ⑦ 新型コロナワクチン接種事業 18億3,452万2千円 <衛生費>
 新型コロナワクチン接種において、希望する全ての区民の接種が完了できるように、体制を整え実施する。
- ⑧ 新型コロナウイルス医療費 1億5,301万6千円 <衛生費>
 新型コロナウイルス感染症の感染者数増加に伴い、入院等の患者の医療費について不足が見込まれるため補正する。
- ⑨ 基金積立金 12億5,869万8千円 <諸支出金>
 令和2年度決算の確定に伴い、決算剰余金を基金に積み立てる。
- ⑩ 予備費の増額 5億円 <予備費>
 長期化する感染症の状況や経済動向を踏まえ、引き続き必要な対策を機動的に講じていくため、予備費を増額する。

